

・事業名

神戸映画資料館所蔵アニメーションフィルムのデジタルアーカイブ事業

・団体名

特定非営利活動法人プラネット映画保存ネットワーク

・概要(含む課題)What&Why

神戸映画資料館は、その母体であるプラネット映画資料図書館が 1970 年代から収集・保存してきた 1 万 8 千本以上の映画フィルムを収蔵している。中でも日本アニメーションの揺籃期に作られた漫画映画のコレクションは他のアーカイブが所蔵していない貴重なフィルムを有しており、これまで、日本の映画保存の中核を担う東京国立近代美術館フィルムセンター（現・国立映画アーカイブ）などに複製を作るための原版として提供してきた。神戸映画資料館所蔵アニメーションの中には、長期保存のための複製化やデジタル化ができていないフィルム、さらには題名等が欠落し詳細が不明の作品が多数あるが、本事業により 2020 年度からデジタル化と内容調査が始まり成果を上げている。

*本資料は令和2年度文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業の助成を受け作成した
 *調査は継続中であり、本リストは暫定版です

2021年3月現在〔暫定版〕

	登録題名	製作会社	監督	製作年	調査の判明事項
1	カティ石鯨 		北山清太郎？	1922年頃	中山太陽堂（現・クラブコスメチックス）の宣伝広告映画。北山清太郎作の可能性あり。
2	教育お伽漫画 兎と亀 	北山映画製作所、 ナカジマ活動写真部	山本早苗	1924	1923年9月の関東大震災で北山映画製作所オーナーの北山清太郎の家屋や制作スタジオを損壊。北山は一家で関西へ。残された山本は北山映画製作所を引き継ぐが、制作スタジオがどこか不詳。ナカジマ活動写真部は神戸なので、山本が神戸へ来て制作したことも考えられる。
3	のろまな爺 		大藤信郎	1924	大藤信郎の試作第一作。幸内純一のスミカズ映画創作社で制作。
4	塩原多助（改題「勤儉貯蓄 塩原多助」）	朝日キネマ（鈴木映画）	木村白山	1925 （1941）	1925年『塩原多助』2巻（サイレント）公開後、1927年に一部をカットし22分の『新・塩原多助』を中外活動写真協会が公開。トーキー時代に入り、奥田商会が岩谷サウンドシステムを採用、弁士・松井美明の解説で1巻11分に短縮して活弁トーキー版『勤儉貯蓄 塩原多助』を制作。現在のフィルムは3度目の改訂版である。
5	ノンキナトウサン竜宮参り（改題「夢の浦島」）	朝日キネマ（鈴木映画）	木村白山	1925 （1942）	トーキー再販。解説：牧野周一。原作漫画は麻生豊。サイレントのオリジナル版は1925年『ノンキナトウサン竜宮参り』。トーキー時代に入り1942年『夢の浦島』（9分）と改題され公開された。この作品は『塩原多助』と2本立てで20分となる。
6	切紙細工 西遊記 孫悟空物語 	自由映画研究所	大藤信郎	1925	初公開時の資料では3巻となっている。操手：大藤一江。公開年月日：1925年10月29日（新宿武蔵野館）
7	正チャンの冒険 	東京線画フィルム製作所？	金井木一路？	1923～ 1925（大正年間）	「正チャンの冒険」は樺島勝一が1923年1月から「アサヒグラフ」に連載した子供向きの漫画で大人気になった。2年6カ月の長期連載でアニメ化された。北山清太郎門下の金井木一路（本名・喜一郎）が正チャンシリーズを制作したので、金井作品かもしれない。
8	漫画 山崎街道	三菅谷映画製作所	木村白山	1926	原作漫画は麻生豊「ノンキナトウサン」

キャプション：「神戸映画資料館 古典フィルムアニメーション（1960年代初頭まで）のフィルムリスト」をウェブサイトで公開

ネット環境の進化により視聴と情報共有が容易になったことで、映像研究やロストフィルムの発掘がグローバル化しているいま、未だ詳細調査にいたっていないコレクションのデ

デジタル化は、資料保存と価値発見促進というアーカイブ業務の両側面から不可欠の手続きと言える。

劣化の進行する貴重なフィルムを後世に遺していくためのデジタル化は喫緊の業務であり、また、かつての制作現場を知る人々と世代が隔絶する前に、必要な情報収集ならびにカタログ化を行うことは急務である。

神戸映画資料館所蔵アニメーションのデジタル化と調査研究は、このコレクションを公開・活用するための基盤を構築するもので、日本アニメーション史の可視化の一端を担い、国内のみならず世界のアニメーション振興に資することにつながる。

神戸発掘映画祭



「映画の発掘」とは何を意味するのでしょうか？

映画資料館の収蔵庫、家庭の押し入れや蔵、
はたまた古物商の店頭で、確かに存在しているフィルムたち。
その存在に気づき、そこに写っているものを見て、
その価値を様々な視点から検証し再発見すること、
それらすべてを「発掘」ととらえた映画祭です。

今年のテーマは「個人コレクター」「9ミリ半(9.5mm)フィルム」

「無声映画と音」、そして「新発掘アニメーション」。

これらのテーマは各プログラムで重なり合います。



K OBE

D iscovery



【会場】
神戸映画資料館

【日程】
10月16日(土)、17日(日)
22日(金)、23日(土)、24日(日)
29日(金)、30日(土)、31日(日)



F ilm



ホームムービーの日 in 神戸

個人コレクター特集

9ミリ半フィルム特集

無声映画と音

F estival

- 知られざる鉄道映画
- 自主映画の黎明——『青春散歌・置けない日々』
JISYU〈自主映画アーカイブ上映〉vol.10
- 本宮映画劇場 六邦映画救出大作戦
- 神戸映画資料館 所蔵フィルム調査報告
- 〈シンポジウム〉デジタル映像アーカイブの未来研究



主催……………神戸映像アーカイブ実行委員会
協力……………神戸芸術工科大学、神戸大学、神戸学院大学、京都大学、ボン大学
NPO法人プラネット映画保存ネットワーク、神戸映画資料館、国立映画アーカイブ、サンテレビジョン
実行委員会協力……………FMわいあい、神戸商工会議所、NPO法人 KOBÉ 鉄人PROJECT、(株)神戸ながたTMO、
NPO法人 DANCE BOX、ふたば学会



2 0 2 1



23日(土)16:20

田中鐵商店アニメコレクション

『ちょん切れ蛇』スマイズ映画制作社/1930年/幸内純一/16分

『癩取り』横浜シネマ商会/1929年/村田安司/12分

『錆の骨』横浜シネマ商会/1927年/村田安司/12分

『国歌 君が代』横浜シネマ商会/1930年/村田安司/6分

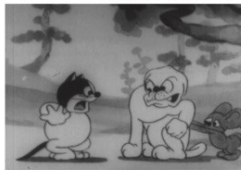
以上、田中鐵コレクション

『軟尖集(なんせんしゅう)』伴野文三郎商店/1939年/大石郁雄/13分

『白鼠物語り』三幸商会発声漫画研究所/1937年/鈴木宏昌/8分

すべて16mm(計67分)

大阪で硝子商品製造販売で成功した田中鐵商店の旧蔵フィルムが神戸映画資料館に寄贈された。多数のホーム・ムービーに混じって幻のアニメ『ちょん切れ蛇』など数本のアニメが含まれていた。日本アニメ三人の創始者の一人として知られる幸内純一の最後のアニメ作品で初の発掘上映。寄贈フィルム以外に、「活動弁士の映画史」の著者・高槻真樹の協力で購入した大石郁雄の『軟尖集』なども上映。



『白鼠物語り』



23日(土)13:30

新発掘アニメーション

『海の宮殿』日活/1927年/政岡憲三/9分

『泳げや泳げ』製作会社不詳/6分

『森の野球団(巻頭の音声欠落)』政岡映画美術研究所/1934年/原田晴一/8分/元素材16mm(巻頭のみ9.5mm)

『のらくろ二等兵』森紅/4分

『ピョン太郎従軍』12分

『大当り空の円タク』協力映画社/11分

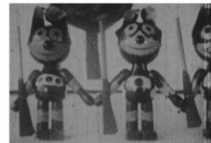
『ワニザメトシロウサギ』11分

以上、記載以外は9.5mmから新たにデジタル化(計60分)

神戸映画資料館が所蔵する日本アニメーションの揺籃期に作られた漫画映画のコレクションは他のアーカイブが所蔵していない貴重なフィルムを有しており、東京国立近代美術館フィルムセンター(現 国立映画アーカイブ)などに複製を作るための原版として提供されてきた。しかし、詳細が不明な9.5mmフィルムが多数あったが、文化庁メディア芸術アーカイブ推進支援事業のもとでの調査が新発掘につながった。中でも玉岡コレクションに含まれていた政岡憲三の『海の宮殿』は今年のロッテルダム国際映画祭でも上映され話題となった。



『海の宮殿』



『のらくろ二等兵』

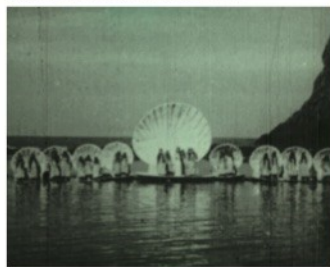
30日(土)11:00

〈参加無料〉

神戸映画資料館 所蔵フィルム調査

『海の宮殿』(政岡憲三)や『ちょん切れ蛇』(幸内純一)など今回、新発掘上映されるアニメーション映画作家の作品解説に加え、近年取り組んでいる作品の同定作業の実際を紹介し、不明作品の調査は様々な角度からの取り組みが必要ですが、偶然も手伝って判明した作品のいくつかを、断片映像を示しながら明らかにします。

【講師】佐崎順昭(映画史研究)



『海の宮殿』

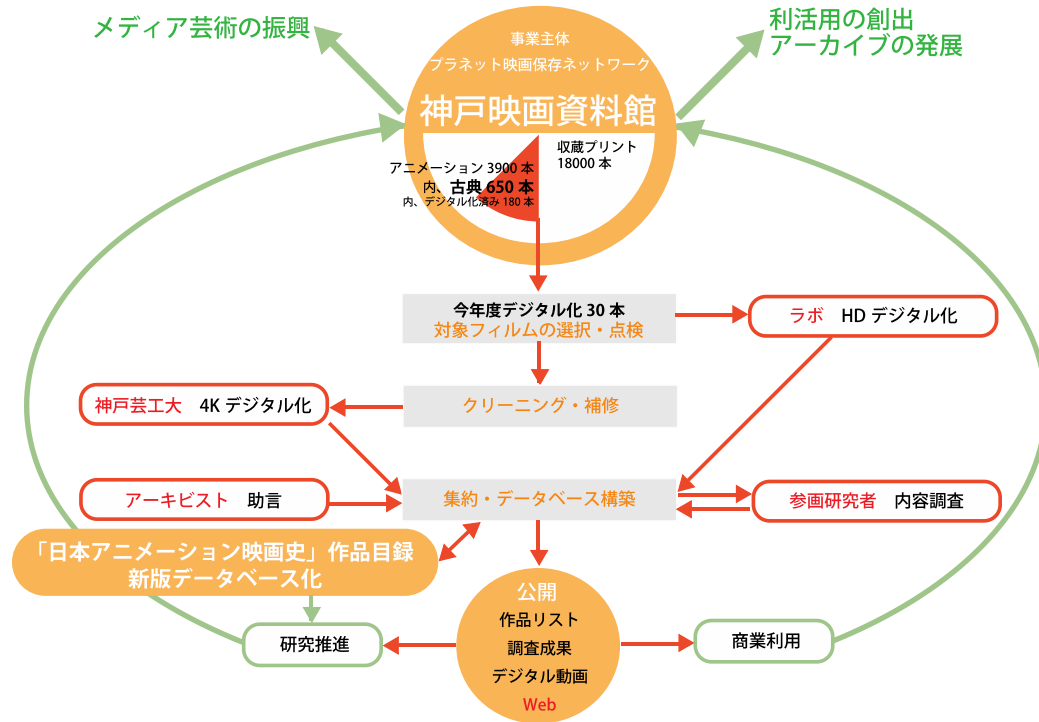


『ちょん切れ蛇』

キャプション：神戸発掘映画祭 2021 で発掘アニメーションを披露

2021 年度からの新たな取り組みとして、本団体代表の安井喜雄がかつて企画編集した書籍「日本アニメーション映画史」(1977 年、有文社刊)の作品目録の新版データベース作成に着手した。目録更新のための調査の一環として作品ごとに参考文献を関連づける作業を行い、これにより研究起点としての目録の利用価値が高まるだけでなく、さまざまな研究の促進、不明作品の同定、そして新たな作品発掘の可能性が広がる。

・体制/手法(解決方法)How



① 古典アニメーションフィルムのデジタル化

未デジタル化の神戸映画資料館所蔵フィルムを対象に実施する。これまで研究・活用の範囲外であったフィルム資料から新たな発見が期待できる。

35mm、16mm の可能なフィルムは神戸芸術工科大学の 4K スキャナーを使用し、神戸映画資料館の安井喜雄とデジタル技術者がデジタル化を行い、その他技術的に困難なフィルムはラボ（イマジカ、東京光音など）で HD デジタル化を行う。

共同研究：神戸芸術工科大学

② デジタル動画をもとにした内容調査と文献調査

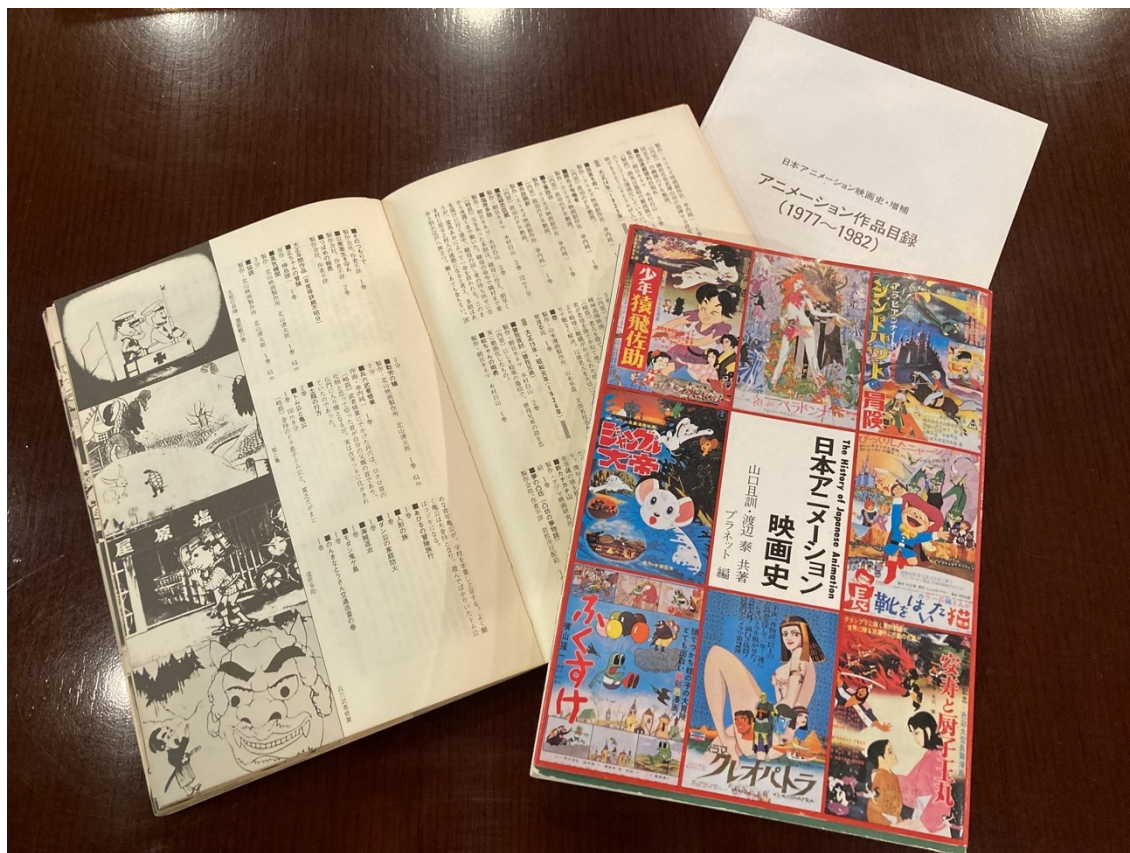
専門家にデジタル動画を送り、リモートワークで調査を行う。

③書籍「日本アニメーション映画史」作品目録 新版データベース化

日本のアニメーションを語る上で欠かせない文献「日本アニメーション映画史」の作品目録をもとに、本事業のフィルム調査成果などの情報をアップデートし、データベースを作成する。

参画者（②③）：野中和隆（アニメーション作家・研究）、佐崎順昭（映画史研究）、板倉史

明（映画研究／神戸大学）、佐野明子（アニメーション研究／同志社大学）



キャプション「日本アニメーション映画史」

・成果(公開・成果物について)

● データベース構築、公開と発表

公開・活用に不可欠な著作権の調査を行い、データベース構築のためのメタデータを作成する。

デジタル動画をもとにした調査成果を公開し、一部の動画をウェブサイトで公開する。

参画者：松山ひとみ（アーキビスト／大阪中之島美術館）、上田学（映画研究者／神戸学院大学）

本計画は複数年での完了を予定している。前年度に引き続き、神戸映画資料館収蔵の古典アニメーションコレクションのうち劣化が危ぶまれるフィルムや内容不明フィルムを対象にデジタル化と内容調査を行う。さらに、「日本アニメーション映画史」の作品目録の更新とデータベース化に着手し、二年後の公開を目指す。

・成果(社会・産業に向けての意義、見込まれる社会的利用等)

神戸映画資料館の所蔵のみのフィルム、中でもアニメーション映画史の欠落を埋めるようなフィルムについて、専門家の知見を広く得ることができると同時に、後世に初期アニメーションを残し、現存していないと思われていた作品や未知の作品を発掘することができる。「日本アニメーション映画史」の作品目録のデータベース化は、本事業の代表者・安井喜雄によるこれまでの収集・研究成果を整理・集約することにつながり、基礎資料の更新とデジタルアーカイブ化に寄与する。

現存率の低い戦前の映画フィルムについての所蔵情報を国際発信することで、埋もれていた価値発掘につながる。日本の地域の映画アーカイブとしてだけでなく、映像資源を保存する国際的な活動の一翼を担う文化機関としての役割を果たすことになる。

すでにパブリックドメインと判断される作品を積極的に創造活動のための知的資源として提供することで、新たなアイデア・経済活動を生み出すための基盤作りに資する。



IFFR 2022
26 Jan – 6 Feb

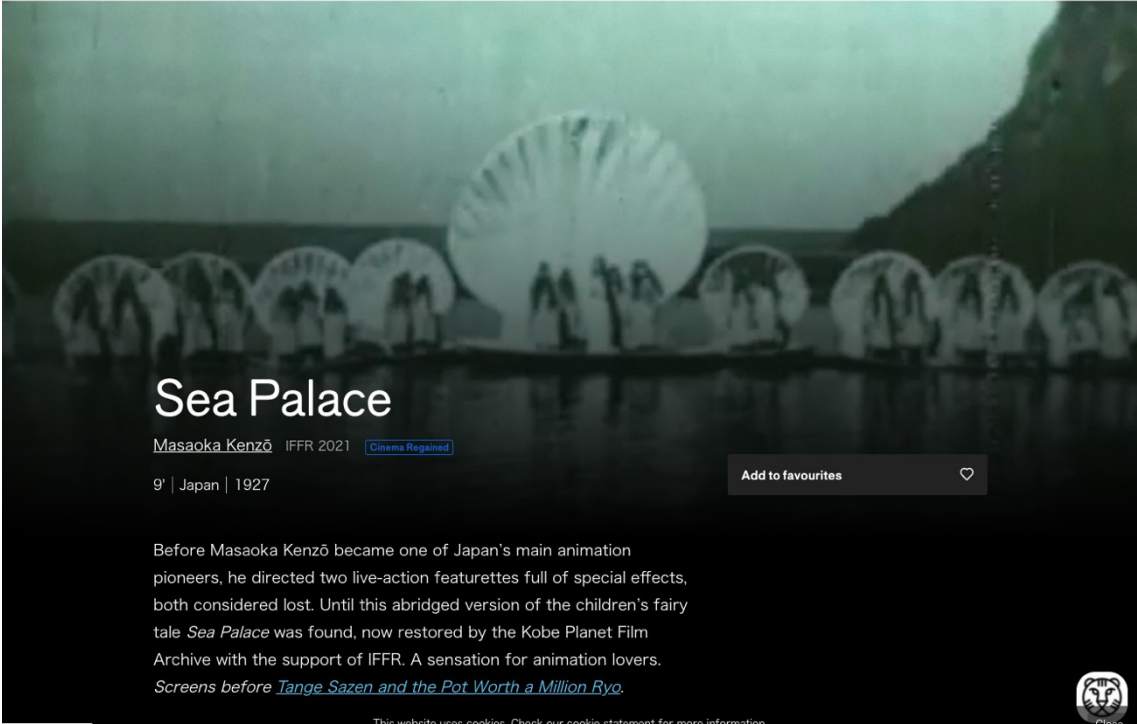
P&I Selection Pro

Account

EN

Q

MENU



Sea Palace

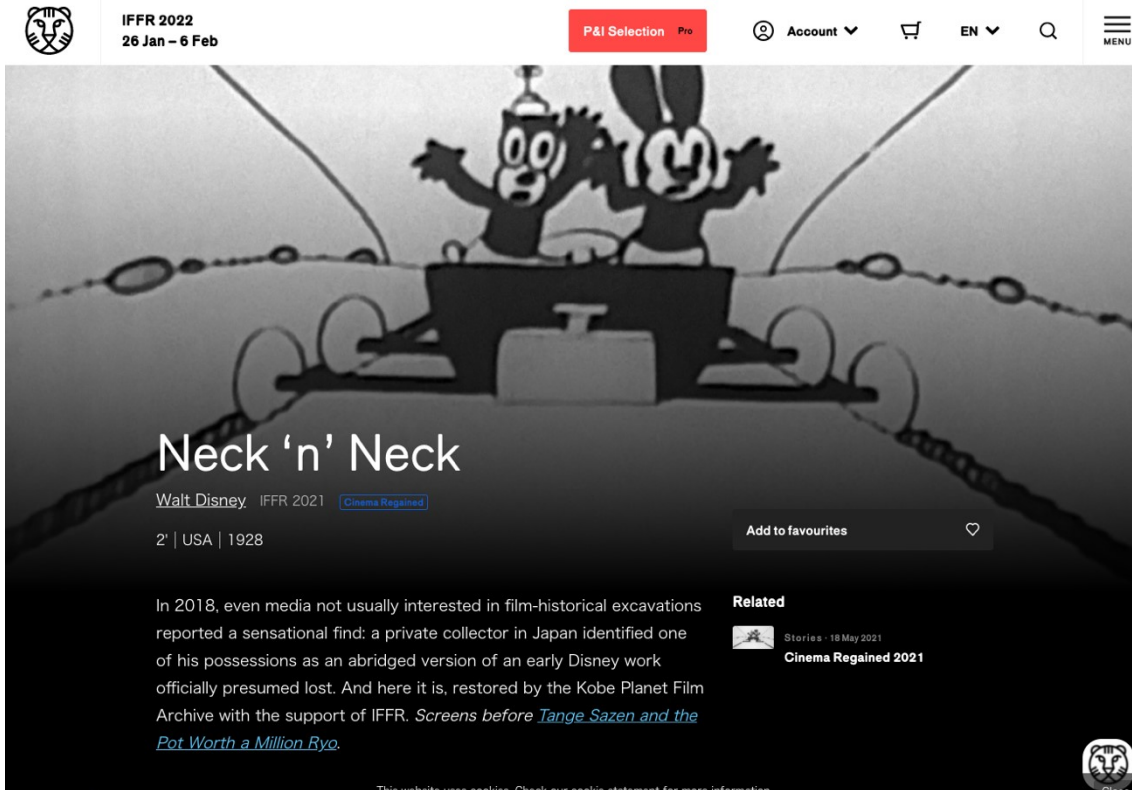
Masaoka Kenzō IFFR 2021 Cinema Regained

9' | Japan | 1927

Add to favourites

Before Masaoka Kenzō became one of Japan's main animation pioneers, he directed two live-action featurettes full of special effects, both considered lost. Until this abridged version of the children's fairy tale *Sea Palace* was found, now restored by the Kobe Planet Film Archive with the support of IFFR. A sensation for animation lovers. Screens before [Tange Sazen and the Pot Worth a Million Ryo](#).

This website uses cookies. Check our cookie statement for more information.



キャプション：ロッテルダム国際映画祭（2021 年）に出品 『海の宮殿』『Neck 'n' Neck』

- ・ 成果(課題)残課題
- ・ 成果(本年度にこだわらない事業の最終ゴール)

デジタル動画化や内容調査と並行して、調査成果の公開と活用研究に本格的に取り組む。

「日本アニメーション映画史」の新版作品目録については、ひとまず 1960 年代初頭までの古典アニメーションを対象に日本語版を完成させた後、英語版を作成し公開したい。また、本書の著者・渡辺泰氏が遺した膨大なアニメ資料が故人の遺志で安井に託される予定である。その膨大な資料を一括保存し、調査し、目録化し、劣化の激しいものはデジタル化した。これらのほか、基礎資料として有用な文献のデジタル公開等、将来的に国内外の研究者が容易に閲覧できる環境を整備する。